

総論

- 昨今の事故も踏まえ、安全を第一に、地域の理解を得つつ、また、住民の帰還や生活に支障を及ぼさないよう、事業を実施する。

輸送

- 特定復興再生拠点区域等で発生した除去土壌等の搬入を進める。また、仮置場を介さずに輸送を行うための方法を検討する。
- 安全で円滑な輸送のため、以下の対策を実施する。
 - ・運転者研修等の交通安全対策や必要な道路補修等を実施し、安全な輸送を確保
 - ・円滑な輸送のため、輸送出発時間の調整など、特定の時期・時間帯への車両の集中防止・平準化
- 福島県と連携し、市町村と調整の上、立地町である大熊町・双葉町への配慮等をしつつ、計画的な輸送を実施する。

用地

○着実な事業実施に向け、丁寧な説明を尽くしながら、施設整備の進捗状況、除去土壌等の発生状況に応じて、必要な用地取得を行う。

施設

○受入・分別施設は、安全かつ計画的に稼働する。また、施設の解体作業に当たっては安全を確保して確実にを行う。

○土壌貯蔵施設は、安全に稼働するとともに、貯蔵が終了した施設では、安全性を確保しつつ、維持管理を着実に実施する。

○仮設焼却施設及び仮設灰処理施設並びに廃棄物貯蔵施設は、安全に稼働しつつ有効に活用する。

再生利用・最終処分

- 最終処分量の低減に資する、除去土壌等の減容・再生利用に向け、関係機関の連携の下、地元の御理解を得ながら、技術開発や県内外での実証事業を実施するとともに、再生利用先の具体化を推進する。
- 減容処理や安定化技術の更なる開発・検証や最終処分場の必要面積・構造に係る実現可能ないくつかの選択肢の検討など、県外最終処分に向けた検討を加速する。
- 上記の検討等の結果も踏まえ、県外最終処分に係る経緯や必要性及び減容・再生利用の必要性・安全性等に関する理解醸成活動を全国に向けて引き続き推進する。

情報発信

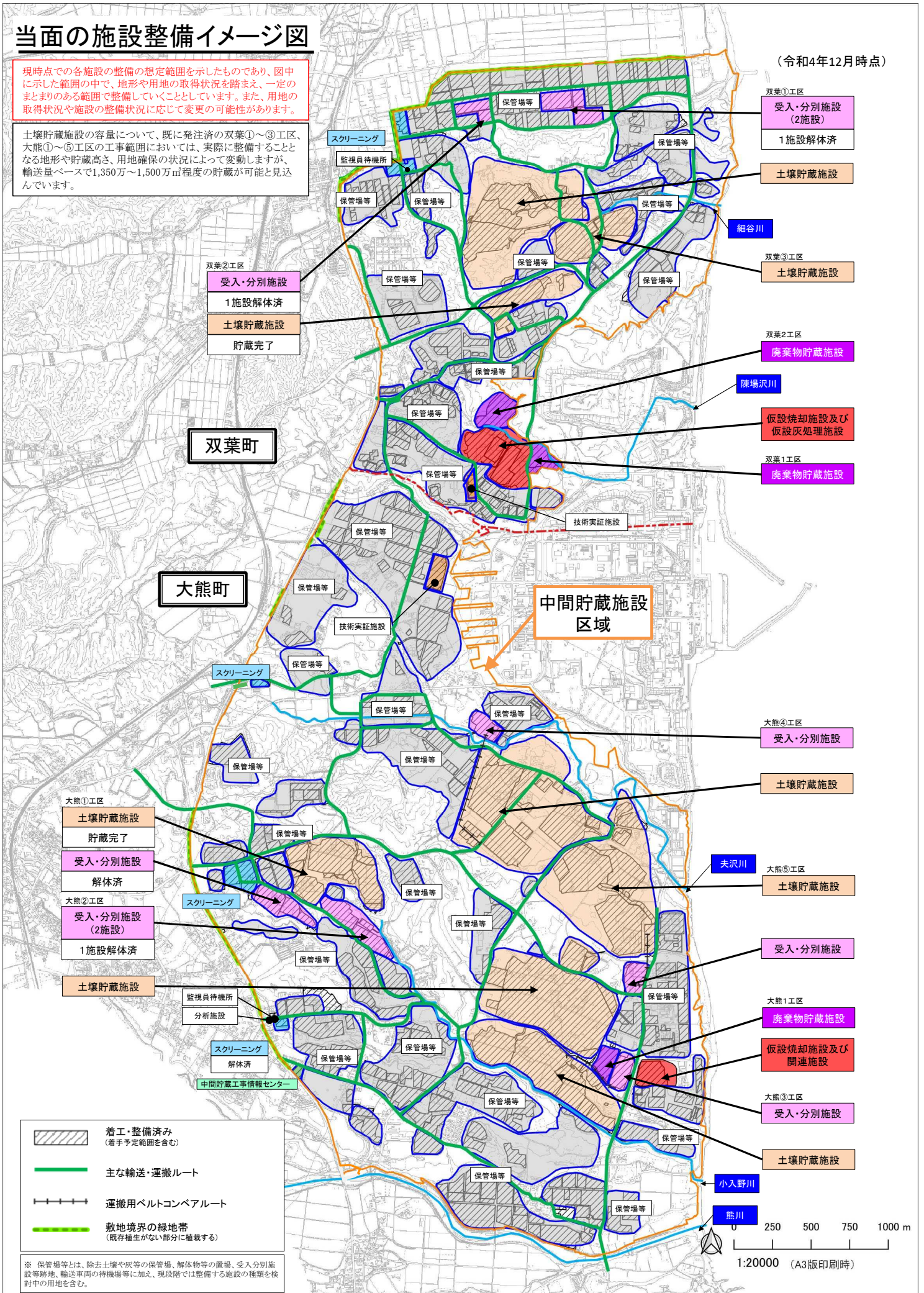
- 環境再生に向けた取組や地元の思いなどを発信するため、現場視察・見学会の充実や、地方自治体・関係省庁等との連携を推進し、より多くの方に福島復興や環境再生の取組について発信する。

当面の施設整備イメージ図

(令和4年12月時点)

現時点での各施設の整備の想定範囲を示したものであり、図中に示した範囲の中で、地形や用地の取得状況を踏まえ、一定のまとまりのある範囲で整備していくこととしています。また、用地の取得状況や施設の整備状況に応じて変更の可能性がります。

土壌貯蔵施設の容量について、既に発注済の双葉①～③工区、大熊①～⑤工区の工事範囲においては、実際に整備することとなる地形や貯蔵高さ、用地確保の状況によって変動しますが、輸送量ベースで1,350万～1,500万㎡程度の貯蔵が可能と見込んでいます。



双葉町

大熊町

中間貯蔵施設
区域

双葉①工区
受入・分別施設
(2施設)
1施設解体済

土壌貯蔵施設

細谷川

双葉③工区
土壌貯蔵施設

双葉2工区
廃棄物貯蔵施設

陳場沢川

仮設焼却施設及び
仮設灰処理施設

双葉1工区
廃棄物貯蔵施設

技術実証施設

大熊④工区
受入・分別施設

土壌貯蔵施設

夫沢川

大熊⑤工区
土壌貯蔵施設

受入・分別施設

大熊1工区
廃棄物貯蔵施設

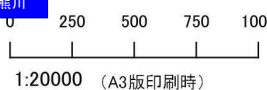
仮設焼却施設及び
関連施設

大熊③工区
受入・分別施設

土壌貯蔵施設

小入野川

龍川



1:20000 (A3版印刷時)

- 着工・整備済み
(着手予定範囲を含む)
- 主な輸送・運搬ルート
- 運搬用ベルトコンベアルート
- 敷地境界の緑地帯
(既存植生がない部分に植栽する)

※ 保管場等とは、除去土壌や灰等の保管場、解体物等の置場、受入分別施設等跡地、輸送車両の待機場等に加え、現段階では整備する施設の種類の検討中の用地を含む。